

平成29年度新型インフルエンザ等対策訓練実施結果(各圏域・市町)

- ・圏域ごとに医療機関や市町等と訓練を実施している。訓練実施にあわせて、対策の概要等の確認も行っている。
- ・訓練の内容は圏域によって異なり、継続実施による定着と新たな取り組みについても検討していくことが必要。
- ・市町による主体的な訓練実施が必要。

資料3-2

圏域	実施日	構成員	訓練内容	実施結果及び課題	市町名	訓練内容	30年度 訓練検討状況
阪神南	3月16日	病院関係者、芦屋健康福祉事務所職員	陰圧テント設営及び、機器等の動作確認の実動訓練	陰圧テントをトリアージのための診察室として使用する場合において、患者の待合室の確保が必要。	芦屋市	医師会との連絡訓練	
					尼崎市		
					西宮市	防護服の着脱及び患者移送の実動訓練	実動訓練
阪神北	2月19日	宝塚健康福祉事務所 職員	健康福祉事務所職員によるトリアージ外来の設営及び撤収及び防護服の着脱の実動訓練	防護服の着脱が確実にを行うことが出来るよう、定期的な訓練の開催が必要。	宝塚市	市関係部署との連絡訓練	連絡訓練
					三田市		
	6月1日	川西市・猪名川町医師会、市薬剤師会、自衛隊阪神病院、市立川西病院、協立病院、ペリタス病院、伊丹市医師会、川西市・猪名川町、宝塚・伊丹健康福祉事務所	外来協力医療機関での対応訓練及び、医療体制整備に係るトリアージ体制と受診の流れ等の実動訓練	防護服や消毒等の感染防止対策や重症者の搬送・小児救急・消防との連絡体制及び、医療職以外の多職種間の協力体制が不可欠であることが明らかになった。	伊丹市	各発生段階ごとの具体的対応策についての机上訓練	机上訓練
					川西市	(防護服の着脱及び臨時の外来協力機関での運営方法についての実動訓練に参加)	
猪名川町	(防護服の着脱及び臨時の外来協力機関での運営方法についての実動訓練に参加)						
神戸	12月13日	危機管理室防災体制整備担当、保健所予防衛生課	講義及び問答形式により構成し、「神戸市の初動対応」について時系列に沿って確認する机上訓練	市内の9区役所間において、業務継続計画における窓口の対応(実施業務)が異なることが判明し、全区において統一した業務継続計画を策定する必要がある。	神戸市	同左	机上訓練
東播磨	12月9日	病院、医師会、消防、市町、加古川健康福祉事務所	・加古川市における相談窓口対応、臨時新型インフルエンザ対応外来(トリアージ外来)および感染症対応エリア(陰圧診察室)での実動訓練 ・小児の新型インフルエンザ疑い患者の入院対応、成人の新型インフルエンザ疑い患者の指定医療機関への実動訓練	新型インフルエンザが疑われる患者から一般患者への感染がより防止できる専用外来受診ルート・場所についての検討や、多くの患者が押し寄せる事も想定が必要。また、病院スタッフ各個人のスタンダードプリコーション(標準予防策)の行動レベルの向上を今後も図っていく必要。	加古川市	(医療機関での患者受入対応等の実働訓練及び机上訓練に参加)	
					高砂市	市内連絡訓練	連絡訓練
					稲美町	(医療機関での患者受入対応等の実働訓練及び机上訓練に参加)	
					播磨町	(医療機関での患者受入対応等の実働訓練及び机上訓練に参加)	
					明石市	(医療機関での患者受入対応等の実働訓練及び机上訓練に参加)	実動・連絡訓練
北播磨	11月27日	市立加西病院職員、加東健康福祉事務所職員	(1)「新型インフルエンザ対策の概要」 (2)「市立加西病院の医療体制について」 (3) 訓練 ①机上訓練 ②PPE着衣訓練 ③実地訓練 ④PPE脱衣訓練 (4)「診察室等の消毒方法」	診察時は患者が移動するよりスタッフが移動する方が良いと病院側から提案あり。 感染症病棟には中央配管がなく、重症患者の受け入れが出来ない。また、軽症で受入れても、重症化した場合も対応できないので転院対応となる状況は課題。	小野市	市関係部署による、緊急事態宣言時等の具体的対応についての机上訓練	連絡訓練
					加東市	市関係部署への連絡訓練	机上訓練
					西脇市	市関係部署への連絡訓練	
					多可町		
					三木市	市関係部署への連絡訓練	
中播磨	8月21日 (研修会)	公立神崎総合病院、管内病院及び有床診療所、神崎郡医師会、管内特別養護老人ホーム、管内各町、中播磨健康福祉事務所職員	国内発生後、疫学的に感染経路が把握できなくなり、感染症病棟への入院が終了した時点での重症患者の入院医療体制の確立	院内でのBCPの作成は行っているが、職員の新型インフルエンザ罹患等に伴う診療機能の低下を想定したものがなっていなかった。また、アクションカードについては、未作成であった。しかし、本研修を契機に看護協会のアクションカード作成研修に参加するなど危機意識が高まった。	加西市		
					姫路市	基幹病院(5病院)との患者受入及び市役所内本部班の机上訓練	
					市川町		
					福崎町		
					神河町	病院・役場関係部署内での連絡訓練	
西播磨	10月4日 3月13日 3月14日	赤穂市・相生市・赤穂郡医師会、赤穂市民病院、IHI播磨病院、半田中央病院、相生市民病院、赤穂仁泉病院、赤穂記念病院、赤穂中央病院、赤穂市消防、相生消防、赤穂市・、上郡町職員、龍野・赤穂健康福祉事務所職員	地域感染期における発熱外来の訓練及び、健康福祉事務所職員による陰圧テント設営・PPE着脱の実動訓練	毎年感染症指定医療機関である赤穂市民病院で訓練を実施しているので、訓練の想定を変えて実施しているが、地域感染期では、すべての医療機関において、新型インフルエンザ疑い患者の診察を行うため、診療所において地域感染期の想定での訓練の実施が課題。 PPE着脱は毎年実施する事により習熟、着脱未経験者のスキルアップが課題。	たつの市	役所内関係部署への連絡訓練	
					太子町	庁内関係部署への連絡訓練	連絡訓練
					佐用町		
					宍粟市		
					相生市		
					赤穂市		実動・机上訓練
					上郡町	庁内関係部署への連絡訓練	
但馬	1月30日	公立八鹿病院関係者、朝来健康福祉事務所	県内未発生期～県内発生早期における専用外来、診療、第二種感染症指定医療機関への移送等への対応に関する机上訓練	専用外来を設置する医療機関の院内での調整を必要とする部分が明らかとなった。さらに、感染期の対応についても今後検討が必要。	豊岡市	市役所内関係部署への連絡訓練	連絡訓練
					香美町		
	2月19日	公立豊岡病院関係者、公立八鹿病院関係者、豊岡・朝来健康福祉事務所	県内未発生期～県内発生早期における専用外来の設置、診療等の机上訓練	移送先の医療機関とあらかじめ調整する必要がある事項が確認できた。診断後、入院が必要な際の移送方法について、他の関係機関と調整、情報共有が必要移送ができない患者の対応について院内で調整が必要。	新温泉町		
丹波	10月10日	医療関係者、管内医師会、管内市職員、管内消防本部、県民局・丹波健康福祉事務所	入院協力医療機関及び外来協力医療機関における入院及び外来受け入れと医療体制の実動訓練	管内病院の感染対策について差が大きく、各病院の状況に応じた感染対策の底上げが必要。	養父市		
					朝来市	市役所内関係部署への連絡訓練	連絡訓練
淡路	10月23日	県立淡路医療センター職員、広域消防事務組合職員、洲本健康福祉事務所職員等	県立淡路医療センターにおいて、患者受け入れ並び消防署職員による患者搬送、健康福祉事務所職員による疫学調査等の実動訓練	今回の訓練で初めて患者搬送から診察、病棟への移動、聞き取り調査等を実施したが、実際に起こった状況を想定し訓練を行うことが重要。	篠山市	市役所内関係部署への連絡訓練、市内関係機関への連絡訓練	
					丹波市	対策本部の設置及び連絡訓練	連絡訓練
	1月31日	医療機関、市職員、広域消防事務組合職員、洲本健康福祉事務所職員	感染防護具の着脱訓練、陰圧テント設置・撤収の実動訓練	安全かつ正確に感染防護具を 着脱出来るようになるには、今後も頻繁に訓練する 必要。	洲本市	市役所内関係部署への連絡訓練	
淡路市							